（別紙4）　　令和　3　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 4271401830 | | |
| 法人名 | 有限会社　ｴｽ･ﾜｲ･ｼｰ | | |
| 事業所名 | グループホームクベレ | | |
| 所在地 | 長崎県雲仙市小浜町金浜422-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和　3年　8月　5日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年10月6日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構 |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 |
| 訪問調査日 | 令和3年9月25日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、大きなガラス窓から橘湾を一望できる解放感がある施設です。
また、前には国道があり車の行き来を眺めたり、駅伝の応援をする事も出来ます。
ゆったり、穏やかにその人らしい生活が送れるよう、家庭的な雰囲気を心掛けています。
コロナウイルスの影響により外出や外部との交流ができないため、施設内で歩行訓練やバ体操、テレビ体操を行い体力維持に努めたり、季節の塗り絵や壁紙作り風船バレーや歌などレクリエーションにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

平成16年4月1日に開設した海沿いにあるホームで、橘湾を一望できる場所にある。令和3年8月1日より共用認知症対応型通所介護を開設し、地域住民に寄り添い、住み慣れた当地域でいつまでも生活できるよう支援している。それに伴い事務所や休憩室、入居者が外に出て気分転換ができるようにテラスを増設し、入居者は屋外で景色を眺めたり、おやつを食べたり、テーブルと椅子をテラスに並べて歌を唄うなど、開放感にあふれる環境の中で生活できている。近くの保育園児がホームへ訪問し琉球太鼓の演奏を披露するなど、地域との交流も深めている。現在、新型コロナウイルス感染症に係る特段の事情により、以前のような外出や交流を自粛しているが、そのような状況でも感染対策を講じドライブに出かけたり、家族や友人と電話で会話できるよう支援するなど入居者一人ひとりが住み慣れた地域とのかかわりを継続できるよう支援している。毎朝、入居者は音楽に合わせて体操を行い自立支援に取り組むほか、連携医の往診もあり、ホーム全体で健康管理に留意し、本人本位の支援に取り組んでいる。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | | 3. たまに |
| | | ○ | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている<br>（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | ・職員で考えた理念をもとに日々の介助を行っている。<br>・毎朝ミーティング時に「職場の教養」を読み気持ちを初心に戻すよう努めている。 | 朝礼の際に「職場の教養」を用いて社会人としての行動指針や職場の人間関係、仕事のコツ、失敗への対処法、心の持ち方、時事の話題など幅広い内容を唱和し、職員の倫理感を養っている。ホームの理念を踏まえて入居者の「利用者本位の生活」を実現すべく、日々の支援に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に入り、自治会活動にも積極的に参加している。 | ホームは地域の自治会に加入し、入居者が地域住民と繋がりながら生活を継続できるよう取り組んでいる。ホームに隣接する住民の方々から入居者や職員に声掛けしてもらったり、訪問や野菜の差し入れがあるなど日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 個別に相談があった時など声かけや介助の仕方<br>などを話したりしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ・2ヶ月に1回開催している。<br>・入居者の状況、行事などの説明をし意見を聞いている。<br>・家族代表は入居者家族の持ち回りとし、参加していただいている。 | 運営推進会議には、地域の民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表が参加している。それぞれの家族が運営推進会議に参加してもらえるよう持ち回り制としている。運営推進会議を通じて入居者の状態や支援の状況、今後の取り組みについて協議し、意見を求め、サービスの向上に活かしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議の委員として包括支援センターの職員が出席しているので、その時話したり電話したりしている。 | 市の福祉課、保護課の担当者と面談や電話などを通じて日頃から連絡を密に取り合い、ホームの状況や支援の取り組みについて積極的に相談し、より良い支援のための協力関係を築いている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 「身体拘束しない」と基本している。介助困難な時は、職員間で話し合いをし、拘束しない方法を考え介助を行っている。 | 身体拘束をしないための取り組みを実践している。「身体拘束ゼロへの手引き」を用いて全職員に周知している。また、スタッフ会議にてホーム長と全職員で、身体拘束に関する研修を定期的に行っている。 | 身体拘束について話し合った記録を残しているが、記録内容が十分とは言えない。例えば研修記録の添付、参加した職員名の記載、出席できなかった職員へ回覧した際のサイン（押印）、運営推進会議への報告等、今後、記録を充実することが望まれる。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 新聞、ニュース等で観た虐待事例を職員間で話し合ったり、自分たちの介助法の見直しを行っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修の案内があれば受講するようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | その都度説明し、同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の面会時や運営推進会議に出席の際に意見・要望を聞いている。意見はスタッフ会議などで話し合っている。 | 入居者や家族からの意見や要望を運営推進会議にて報告し、参加者からの意見や提案を受け、ホームのより良い運営に反映している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議には、必ずホーム長、管理者が出席し意見を出し合っている。 | 代表者や管理者は日頃より職員の意見や提案を聞くように心がけており、勤務体制や有給休暇の取得、勤務の交代等が円滑に行えるよう取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者は常々他の職員と話し合う機会が多いので個々の状況を知っており、要望も聞いている。<br>代表者に相談しながら環境整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 自分たちで勉強会をしたり、外部研修会への参加や資格取得への補助なども行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 代表者は雲仙市グループホーム連絡協議会の会長を努めている。<br>今はコロナ禍で勉強会交流会がないが以前は出来るだけ参加するように呼びかけていた。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人や家族に必ず聞くようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人や家族に必ず聞くようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人や家族また全施設の職員に話を聞き対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の生活習慣を尊重しながらホームでの生活に馴染まれるよう工夫、声かけ、誘導している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 何かあればすぐに連絡するようにしている。<br>必要に応じ面会に来てもらったりしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍で面会は控えてもらっているが電話で話をしてもらったり、窓ガラス越しで会ってもらったりしている。 | コロナ禍以前は、家族や友人との外出、外食、墓参り、ドライブでの桜や紅葉見物、地域の店舗での買い物等、馴染みの人や場との関係継続ができるよう支援してきた。現在は玄関やテラスで入居者家族や知人との面会、電話を通じて会話できる機会を設け支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 掃除、洗濯物たたみ、食後のテーブル拭き、お盆拭きなど協力されている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も家族や施設に状況を聞いたりしている。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメン** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常生活の様子や会話の中から意向を把握している。または家族に聞いている。 | 入居者が希望する暮らし方を入居者本人や家族から希望や意向を聞いている。入居者一人ひとりが思い描いた暮らし方をホームで検討し、本人本位の暮らしが実現できるよう取り組んでいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族から聞いている。<br>前施設職員に聞く事もある。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人の意向を尊重しながらも自分で出来られる事は自分でされるよう声かけ、誘導している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 面会時や電話で利用者の状況報告している。その時介護職員等と話し合った介護の提案をしたり、家族の要望を聞いたりしている。 | 入居者本人や家族の希望や意向、毎日支援しているホーム職員からの情報や提案を踏まえて、毎月１回開催するスタッフ会議で話し合っている。入居者がより良く暮らすための介護計画を作成し、実践に努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 朝のミーティング月1回のスタッフ会議等で出た意見を業務日誌やスタッフ会議議事録に記載している。ケアプランの見直しに役立てている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入居者の状況や変化に合わせた介護を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 例年は保育園や小中学生との交流をしていたが、コロナでしばらく中止にしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人家族の希望を尊重している。何かあればいつでも相談できる。<br>主治医と良好な関係が築けている。必要に応じ他病院へ紹介してもらっている。 | 入居者や家族が望むかかりつけの医療機関を受診できるようその方の主治医との関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。基本的には家族が病院受診に同行するが、状況に応じて職員が受診に同行し、主治医の指示を受けてその内容を家族に報告している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1回看護師が入居者の健康チェックに来た時、日頃の状態の報告をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 時々見舞いに行き、医師や看護師に状態、退院後のことなど話を聞いている。<br>病院の医療連体質とも小まめに連絡を取り合っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時や面会時に方針の説明を行っている。<br>終末期における事前確認書をとり本人や家族の意向に沿って支援している。 | 看取りについては入居時に本人と家族に説明し、同意を得ている。ホームには看取りに関する指針を整備して全職員が日頃より重度化した場合や終末期に備えている。主治医や地域の関係者とも連携し、入居者が安心して最期まで暮らせるよう取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急マニュアルを配布しスタッフ会議等で確認したり勉強会を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。<br>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 年に2回避難訓練を行っている。<br>（内1回は消防署指導）<br>3～4ヶ月に1回程度は職員のみで消火訓練をマニュアルに沿い確認している。 | 年2回の消防避難訓練及び自然災害を想定した避難訓練を実施している。隣接する住民と日頃より連携を図り、ホーム内の自動通報装置にも登録されている。地域の協力体制を整備し緊急時に連携が図れるよう取り組んでいる。 | 備蓄の一覧表を作成しているが、消費期限の記載がない。今後、消費期限を明記すると共に調理に必要な器具の備えを明確にすることが望ましい。また、入居者情報の持ち出しファイルに薬の処方一覧があったが、最新の処方箋情報に更新し写し等を添付しておくが望ましい。海岸に近い立地であることを踏まえ、今後、津波にも対応した防災計画を立案するなどより充実させることに期待する。 |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価<br>実践状況 | 外部評価<br>実践状況 | 外部評価<br>次のステップに向けて期待したい内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 対応で気になった時にはお互いが注意するようにしている。<br>スタッフ会議などで話し合うこともある。 | 入居者一人ひとりのプライバシー保護のため、個室でオムツ交換をする際には扉を閉めて行う、何かを伝える際には優しく丁寧な声掛けを行う等、全職員が配慮して支援するようにしている。毎月のスタッフ会議では個人の尊厳を保てるような支援の方法を検討し、実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人に尋ねたり日常生活の会話の中から聞いている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 平均年齢が93才と高齢で要介護4･5の方が半数以上いるので、各々の今日の体調に合わせ、食事や入浴･アクティビティーなど行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 季節に合わせた服装を心掛けている。本人に聞くようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の下ごしらえ、おしぼり巻き、茶碗洗いなどをそれぞれ手分して手伝ってもらっている。 | 入居者自らがテーブルを拭いたり、ゴボウのささがきをしたり、誕生日会のケーキに生クリームを塗ってフルーツを飾り付ける等、食事の準備に関わることで楽しく食事ができるよう取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事の量や水分量、個人に合わせて支援している<br>歯が無い人飲み込みが悪いひとはミキサーにかけたり刻んだりし、水分はトロミをつけてだしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアの声かけ、誘導を行っている。<br>訪問歯科に来てみてもらったり、指導してもらっている。<br>出来ない方は介助にて行う。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレでの排泄を基本にしているが、必要に応じて紙オムツ、紙パンツ、パットを使用している。<br>夜間は本人希望でポータブルトイレを使用されている方もいる。 | 入居者一人ひとりの排泄状況を「排泄チェックシート」に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握、失禁する前に声掛けしトイレまで誘導し介助することで、排泄の自立に向けて取り組んでいる。夜間のみポータブルトイレを使用する方が居るが、日中はトイレへ誘導し対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 必要に応じて薬を処方してもらい、水分を多めに摂ってもらうようにしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴する日はだいたい決めてはいるが、本人の意向を聞いて入浴して頂いている。 | 週2回は入浴ができるように支援している。<br>基本的には1日に3名を入浴介助しているが、入居者の希望に応じていつでも入浴できるよう個々の状態に応じて支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 消灯は21時だがそれぞれ自分の好きな時間に休まれている。<br>シーツ交換、布団の調整、居室の温度湿度管理をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者の服薬情報を作成しており、マニュアルに沿って服薬介助を行っている。<br>気になることは医師に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除や洗濯物たたみなど出来ることを毎日手伝って頂いている。<br>保育園との交流など行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一緒に買い物に行ったり、本人の意向にできる限り沿うようにしている。<br>家族と出掛ける際も支援している。 | コロナ禍以前は入居者一人ひとりの希望に応じて家族や友人との外出、外食、墓参り、地域の店舗での買い物等を支援してきた。<br>現在は感染予防の観点から、玄関先やテラス等の屋外で気分転換を図ったり、感染対策を講じてドライブし桜やひまわり、紅葉見物等を行うなど外出を支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人、家族の意向に任せている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話はいつでも取り次いでいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | リビング、台所、廊下には仕切りが無く開放的な作りになっており良く見渡せる。<br>国道に面しているが窓を閉めていると音は気にならない。季節に合わせた飾りつけをしている。 | ホームの大きな窓から海沿いの景色を眺めることができる広々としたリビングである。入居者がいつでも好む場所でくつろげるようテーブルや椅子を配置している。廊下の壁面には入居者と職員が季節に応じて制作した壁画を飾り、ホーム内を明るく安らぎのある雰囲気にしており、居心地よく過ごせるような工夫がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 自分の好きな所に座って過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人、家族の意向に任せている。<br>収納等できる方は自分でしてもらっている。 | 入居者が入居以前に生活していた居室の状況を把握し、可能な限り再現し、穏やかに過ごせるように取り組んでいる。使い慣れたテーブル、座椅子、自宅の居室にあったゴザ、大切に守ってきた位牌を置く等、一人ひとりの要望に応じ、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 必要に応じて手すりの増設したり、安全に自立して出来るようにしている。 | | |